

サクラランボの季節、ケネディ大使を本県に

JIC、国際大会に招請

6月 山形開催 「調整する」と担当公使

山形訪問に前向きな姿勢を示しているキャロライン・ケネディ駐日米大使の来県を実現しようと、日本青年会議所(JIC)の幹部と関係国会議員が18日、東京都港区の在日米大使館を訪れ、国際青年会議所(JCI)アジア太平洋エリア会議(ASPAC)山形大会に合わせ、日本JICが山形市内で6月6日に開催する「国際フォーラム」に出席するよう招請した。大使館の担当公使は謝意を示し、日程調整を検討する考えを明らかにしたという。

同大使館を訪問したのは元日本JIC会頭で福岡選挙区

の松山政司参院議員(自民)、本県の大沼瑞穂参院議員(同)、日本JICの本樹育副会頭、ASPAC山形大会の斎藤秀和実行委員長ら。外務省審議官立ち会いの下、日本JIC会頭名の要請書を提出した。

ASPACへの関心を高めるとともに、国際大会というケネディ大使の明確な訪問目的を掲げて早期の招請を実現しようと考えが一致した。サクラランボの季節

に山形を訪れてほしいとの意向も働いた。

現段階の構想によると、国際フォーラムのメインパースナリティーとしてケネディ大使を招く方針で、1時間10分のフォーラムの中で40分の講演を想定。アジアに対する米国の役割といったテーマとし、アジア各国の友好促進に役立ててもらおう考え。残り30分は参加者とのトークセッションを予定している。

同大使館はカート・トン首席公使、ジェシカ・ウェブスター経済・科学担当公

使が応対。具体的な招請を受け、ウェブスター担当公使は「大使には各方面からいろいろな招待があるが、(同フォーラムが開かれる6月6日までは)また期間があり、この時期に来てもらったのはありがたい」と述べ、日程調整を進める

考えを示した。

ケネディ大使に来県を求める動きは、着任後の講演で大使が「父(ジョン・F・ケネディ元米大統領)は藩政改革に努めた米沢藩主)上杉鷹山の善政と公益への献身を称賛していた」と発言したことがきっかけで、県、山形市、米沢市などが招請活動を展開している。大使館を訪れたメンバーは取材に対し「ASPACに合わせた大使来県が実現すれば、縁が深い米沢市に立ち寄ってもらえるよう強く働き掛けたい」と述べた。